













「ちよとと置下て送んてらてま  
お姉さんの友達がいらしつちや  
ない」  
英子に言はれて、子供達に極  
ていつた。  
「こゝろ、あんたのお部屋だつちや  
ない」  
友の一人は、おちしやうに、子

**【第七局】**

(圖は原図三七桂成途の局面)

一流 當代  
金霸戰譜  
一手 △後 握 一 郎  
先 ▲殺 松 下 力

一二三 四五六七八

た。  
つてゆくと、  
三の小学と、  
が、辨本を見

「いらつしやい、まし……」  
英子の祖母らしい六十過ぎの  
女が上つてきた。

日一廿  
(月)

[illegible][illegible]

後手の反撃酷し

悠然たる先手の應酬

後手は、敵に命ぜられては最早此處に續出として遂に攻略に甘んじざるに勝つて行かない。

前に述べた通り手段なる三五種殊の意味を生かして、兎も月三七桂成から、即ち同金の時、三五歩をその金銀に動かした。これが後手の拘束する金策戦の開始

お整手 翌月太明親親社中  
三、軍歌（？）満中佐（ヒ）日  
本海軍（？）日本陸軍

瑞福 有馬 運男  
芳雄 大阪政教會館員  
伴兼 大塚大造オオ  
ケスト  
九、四〇（？）陸軍・ニユス  
ニユス解説 仙臺新聞・明日  
の附・松本香根 地方へのニ  
ユス・松本香根

第二放逐

午鐘・〇・四五（？） 初洋分奏  
二、一五 楽隊・既聞

手段で、此處で後手が種々逆襲し、殺れを來すに機會  
す。前出の反撃に對しては、  
は卒に拘束の餘餘を續つ  
て、更に雷鳴の陣を施して來  
らう。その機先を制して、規  
模は遙に遙くに輪流して  
と浴びせられる。

九、〇〇 南近路歌 高

あすのきゝもの

午鐘・〇・二〇（？） 佐の  
市松の語  
京都樂友會校歌 獨本  
午鐘三〇〇（？） 婦人の歌  
初音人の校歌集 獨本  
大、〇〇（？） 友の歌  
大、〇〇（？） 友の歌  
大、〇〇（？） 友の歌  
六、〇〇 合唱（玉聲）

J.B.H.B.T  
捐附並件奏 徒奏

和洋会衆  
長嶺「託託」  
江東青島藥業  
二段松本 薰  
三杉本 砂一

六〇〇	週刊信報	丁	洪敬
六二〇	週刊信報		
七三〇	講演	崔	浩英
七八〇	(演)第樂		
八二〇	運轉(小説)(一)	李	白緬
<hr/>			
七四〇	謝安(日下)	日	田
一、換歩	政務次官		
放政務次官	長代理		
<hr/>			
あすの朝に却つて袖			
しなへんか			
x			
目録の誤りや。白百千			
と打つたのは、日頃の			

[illegible][illegible][illegible]

局七、四〇〇〇  
 松井石根

**治すなら**

**先づ病源**

秘伝が種  
を知らない  
手紙を見た  
暗、暗状な  
脈絡をつか  
つて白粉利

國民歌謡(四種)  
指揮 關 種  
合唱 高島屋  
伊集 東京放送管絃  
白百合 西條照太郎  
聰は底けども愛抱へ、白百合の赤十丁  
句ふなり、清吉白衣の赤十丁  
なぞう句ふなり  
なぞがれ野原の、ベアツ  
めく兵を、弟ごごとく慰め  
く響きに血はにむ  
乙女ながらとも、時雨の夜半  
身ながらとも、時雨の夜半  
覺めて、夢は醒ぬ(かけると  
はるかに響く、醒ぬ、あはは  
も草車に、醒ぬとを念し  
白衣の乙女をよむ

血脈の充進が季節で、季節の變り目にツクリ證據だて、居變にたへかぬ動脈がて一度停されると腫ばなりません。ではふと、前述の如き手等の症狀が斷ちその病源をも究めず一時のもの理の當然。然るに導き、健康體に

有、僅ならず、腰が  
はたけを同金。  
腰に巻ける。腰  
は銀、佳交換水  
と五五銀とを五五に  
割つて、各半の重さ  
の金貨に立する。右の手  
の裏接しに、右の手  
の腹の六六歩に對  
して五七五、二七步  
五五銀、三七步、三五  
銀、四金、三両、  
銀の兩が餘る。

物に會ひましては、及金殿と  
は、か毛皮とか、す所蔵な  
は之又陽金が掛つて汽車、汽  
車を見まして、内里、汽  
車までも幾んど買れる  
と思ふやうに覺れる。  
日常生活に日増して是の  
窮乏關係を持てるを見て  
今、今般に此例を  
多敷採つて、我々日本果として  
税金を平素負擔するものか  
ことを鑑し、強硬に據きに

痛え冷れ痺  
血けつ

係ある國稅

京建設院財政部司理相

〔後六・三五〕 高橋

私共の飲む一本の税附、  
ナイダーにも又日常必要要  
る砂糖、ガソリンの類  
金は掛つて賈ります、我  
を賣ひて賈ります、我々  
此の税附下で、  
手段を誤れば、  
手取金も減る、

供養生方の金  
で養ふては三歩  
五歩行て、良も吐  
き出す商賣です。

居る國稅の面目は  
「此の事」だと云は  
れる。國稅の

足手

車、耳鳴りや  
有凝りに悩む